様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2014～2015
課題番号：２６８８３００１

研究課題名（和文）現代イランの女性労働

研究課題名（英文）The Work of Women in Contemporary Iran

研究代表者
山本　明子（村上明子）（YAMAMOTO, Akiko）

北海道大学・経済学研究科（研究院）・助教

研究者番号：５０７３５８２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では計4回の現地調査を行った。第1回目の調査ではイランの首都テヘラン市を中心に女性たちの生活実態把握のアンケート調査を行った。この調査では就業中の女性のみならず非労働力人口にカテゴライズされる女性たちにも着目した。その結果，NGOやコミュニティ活動など，社会貢献活動に従事する女性が多く確認された。そこで第2回目以降の調査では分析対象を社会貢献活動にフォーカスして事例を集めながら，現地における女性の「仕事」「役割」について検討した。
　また，現地のイスラーム思想の研究者とも情報交換を重ね現地の固有事情の整理に努めた。

研究成果の概要（英文）：I investigated four times in Iran during this program period. Firstly, I conducted research of the current living conditions of Iranian women by questionnaire; mainly in Tehran. In this research, I paid a great deal of attention not only to working women but also women who were classified as the population not in labor force. The findings of this research, many Iranian women attended to social contribution activities; such as NGO and social contribution activities. Therefore, I had focused attention on social contribution activities after second research, and I had considered women's "job" and "role" in Iranian society.
Besides, I had exchanged information with Iranian researchers of Islamic Theology, and I had examined the social contribution activities also from the view point of regional characteristics of Iran.

研究分野：途上国経済論

キーワード：女性労働　性別役割　イスラーム　社会貢献活動　労働市場

１．研究開始当初の背景

独自の内的発展理論を掲げる現代イランでは，男女の役割や社会的配置がイスラーム・ベースの世界観によって導き出されている。報告者はこれまで，同国労働市場を対象に現地調査を行ってきたが，その全体構造を解明するにあたりいくつかの課題も明らかとなっている。特に大きな問題として，女性労働の統計的な評価が現地の実態と乖離していることが挙げられる。すなわち，同国では労働力人口として公式統計で活動状況が明らかになっている女性が少なく，**女性の従来の活動実態を公刊資料から把握するのが難しい**状況にある。（村上，2011，2013）。こうした状況には，イスラーム的価値観の影響が少なくない。つまり，預言者ムハンマドの娘ファーティマを絶対的な女性ロールモデルと位置付けるイランでは，献身，母性，恭順などの倫理的要素が女性の行動様式の基本原理となっている。したがって、女性の携わる活動の多くが統計上，労働として認定されずにいるが，報告者は，こうした状況を統計上の不備として殊更に問題視するのではなく，むしろ**既存の概念では分類・計量できない要素を積極的に評価するべき**だと考える。

他方で，現代イランの来し方に目を向けると，過去 35 年の間に革命－戦争－戦後復興－経済制裁という経緯を辿ってきたことで，社会構造に特殊イラン事情ともいうべき特徴が看取されている。例えば，エーゲルとイスファハーニー（2010）は，戦中のベビーブームがもたらした**若年層の肥大化**による経済・社会構造の歪みを実証しており，同様の観点からアッバーシー他（2009）（2010）はバースコントロール概念の普及によって家庭内における女性の裁量が劇的に改善し，同国における**家父長制に変化**が生じたと指摘している。

またイランでのジェンダーに関する議論を特徴付けるものとして，**イスラーム・フェミニズムの勃興**が挙げられる。例えば，ミール＝ホセイニー（2004）はイスラーム・フェミニズムの多様な方向性を示している。またラシュティ他（2011）は，伝統的な制度を女性側が積極的に活用することで女性の地位向上が可能となる興味深い事例を示した。我が国においても中西（1996）（2002），桜井（2004）（2009），山崎（2009）（2010）らによって，現代イランにおける**女性の潜在能力伸張**と，それに関する**多様な議論のあり方**が明らかとなっている。こうした既存の議論から，イスラーム・ベースのジェンダーおよび両性の社会的配置については，**「家父長的」「父権的」「(女性が)従属的」といったステレオタイプの価値観ではその全体構造を検討することは不可能**であることが分かる。

以上を別言すれば，**イラン女性の「働き方」「活動全般」には，「見えづらさ」「把握しづらさ」という根源的な課題がつきまとっている**と言え，またその理解に向けて**現地適合的な議論の整理が必須**であると指摘できよう。

２．研究の目的

イラン女性の仕事の範疇や活動領域を構造化に向けて，どのような分析視覚が有効だろうか？報告者は，**イラン女性が係わる労働の種類、時間、強度の実態と市場経済が想定する労働概念のギャップが大きく，それが地域の固有事情に大きく影響されている点**に注目した。

本研究の目的はテヘラン市を主なフィールドに，イラン女性の活動全般の事例分析を重ね，それと同時に労働市場への関与のあり方も検討することで，**同国における女性の社会的配置の解明を目指す**ものである。ここで言う**「活動全般」とは，労働市場だけではなく私的領域や地域社会も含んだ生活領域全般**を指す。このように女性の活動領域を重層的に捉えることで，同国女性の**「仕事」「役割」の領域や，社会的配置の構造的な把握**を目指した。

３．研究の方法

上記の目的を達成するために，現地におけるアンケート，インタビュー調査，文献収集，オンライン資料の分析を行った。

<u>１）文献調査について</u>

具体的には（ｉ）マクロ統計データベースの量的評価の整理・分析，（ii）イランや周辺地域におけるイスラーム・フェミニズムの議論，（iii）同国における家族関連法規や労働法，組織活動に関わる法制度，（iv）同国労働市場や女性の就学・就業に関する既存の研究動向，（ｖ）現地における各種メディアの言説――以上５つの視点より整理・検討を行った。

<u>２）現地調査について</u>

本研究期間中，現地調査は４回行った。

まずは 2014 年 9 月から 10 月にかけて，イランの首都テヘラン市を中心に女性たちの生活実態把握のためアンケート調査を行った。この調査は予備的調査であり，主な目的は調査方法や検討課題の精査であった。なお**分析視角の特徴**については，**就業中の女性のみならず非経済活動人口にカテゴライズされる女性たちにも着目**したことが挙げられる。この**予備調査の結果を元に，**第 2 回目以降の調査では**対象を社会貢献活動に従事する女性にフォーカス**した。

また，現地のイスラーム思想の研究者と情報交換を重ねることで，**現地適合的な分析視覚・概念の整理**に努めた。

４．研究成果

当初の計画では，第１回目調査で「大学生」，「就業者」，「主婦」といった活動カテゴリーを念頭に置き，それぞれの基本属性の特徴，

活動状況の把握と傾向分析，ライフコース設計のあり方等を検討し，第２回目の調査で「生産領域＝仕事場」と「再生産領域＝家庭」という空間概念の下，女性たちの意思決定メカニズムや各空間における裁量の実態を検討していく予定だった。しかし，第１回目の調査で，**普段の生活の中で社会貢献活動に携わる女性が多いことが明らかとなった**。そこで，**分析対象を「非営利組織」や「社会貢献活動」にフォーカス**することとした。

「非営利組織」や「社会貢献活動」という切り口からアプローチすることで，**労働市場論ではカヴァーしきれない女性の役割や社会的ニーズの実情と，多様な組織行動を包摂した議論が可能となる**ためだ。

本研究成果は以下の通りである。

１）イラン社会特有の人的資源活用策

革命後のイランでは女性が社会を維持するための担い手として活動する素地が再編・強化された。特に，社会貢献活動という切り口から女性たちの社会的配置を見た場合，**彼女らを社会発展に積極的に活かすような動員体制が採られた**ことが大きな特徴と言える。しかもそれは，**当局が掲げるイスラーム的価値観に沿った形で実践**されている。

２）イスラームと社会貢献活動

イスラーム社会においては，宗教倫理に基づく互助的行動様式が広く共有されている。イスラーム社会の NGO 活動は，現世での善行実践の場であり，良きムスリムとしての内面を外化していく過程といった要素がある（子島，2014）。また，イランにおける慈善活動とイスラーム思想の関係性については細谷（2011）が詳細に分析している。

本研究でも，**市場外での財・サービスのやり取りにイスラーム的価値観や少なくない影響を与えている**ことが確認された。その特徴として，一つは各地のモスクと紐付けられた**コミュニティベースの慈善活動がハレとケの両方をカヴァーしうるよう組織化**され行われていること，第二に**イスラームに由来する慈善活動が社会保障制度の間隙を埋める役割を果たしている**こと（この点は細谷の指摘とも一致する），そしてこれらが**「法学者による統治理論」を主体とした独特の体制の下で活性化している**ことが挙げられる。

３）イラン社会の変化

現地調査の結果，全体傾向として，貧困や環境問題，公共マナーなど**社会問題が広く認知されつつある**こと，以前よりも**組織活動が実践しやすい政治環境になった**こと，そして**権威主義体制と市民社会の醸成がパラレルに進む様子**が確認された。また**活動を通じて，組織文化の共有や組織コミットメントが向上**している様子も伺えた。

４）イラン女性の「仕事」「役割」

現地調査から，女性の「仕事」「役割」については以下の特徴が確認された。

まず有給・無給に関わらず，多くの女性が NGO スタッフとして活動しており，**特に高学歴女性の活躍の場という側面**が看取された。また退職後の女性をボランティアとして活用している NGO もあり，これは**女性のキャリアが労働市場から退出した後も続いている**ことを示す好例と言えるだろう。ただし多くの場合，「生活費を得るための労働の場所」としてのキャパシティはない。多くの女性が NGO や社会貢献活動を支える理由として，この点が大きく影響していると言えよう。つまり，**財政面や持続面の厳しさを女性がカヴァー**しており，その要因として**性別役割規範**によって生活費の獲得を女性はそれほど期待されていないことが挙げられる。

また，**統計上は主婦とされる人々も，社会貢献活動に活発に関与**している状況も確認された。公刊統計におけるイラン女性の経済活動状況の典型は主婦であるが，それは彼女たちの活動場所が家庭内に限定されることと同義ではないと言えよう。

５）まとめ

以上より，革命後のイランでは**女性が社会を維持するための担い手として活動する素地が再編・強化**されたこと，**女性のキャリア形成や自己実現の場として NGO の活用に期待が高まっている**ことが確認された。また，こうした**社会全体の潮流と個々人の行動様式・思考パターンとが相互に作用**しあう様子も実態レベルで把握された。

経済制裁解除の決定以降，現在のイランは歴史的転換点に差し掛かっていると言える。これまでの研究領域の空白を埋めると同時に，同国女性のあり方，そして社会変化とその方向性について，一端を解明しえたものと考える。

＜引用文献＞

桜井啓子，2004 年，「現代イランの女性たちとイスラーム文化」，ユネスコ・アジア文化センター，『機関誌　ACCU ニュース』，No346 ，p2-p4。

桜井啓子，2009 年，「上昇する期待と厳しい現実：イラン社会を支える若者の実像」，中東調査会，『中東研究』．505，p59-p68。

中西久枝，1996 年，『イスラムとヴェール：現代イランに生きる女たち』晃洋書房。

中西久枝，2002 年，『イスラームとモダニティ：現代イランの諸相』，風媒社。

子島進，2014 年，『ムスリム NGO：信仰と社会奉仕活動（イスラームを知る）』，山川出版社。

細谷幸子,（2011),『イスラームと慈善活動：イランにおける入浴介助ボランティアの語りから』，ナカニシヤ出版。

村上明子，2011 年,「イランにおける女性就業の現状：テヘラン市・ホワイトカラー層の事例分析」,『経済社会学会年報』，Vol.33，p151-p162.

村上明子，2013 年,『現代イランの女性労働』，平成 24 年度北海道大学大学院経済学研究科博士論文。

山崎和美，2010 年,「イラン女性の挑戦：ヴェールによる自己表現と民主化の可能性」,『アジ研　ワールド・トレンド』No.182, アジア経済研究所，p12-p15。

山崎和美，2009 年,「イランにおける大衆運動への女性参加」, 中東調査会,『中東研究』. 505，p59-p68。

Abbasi-Shavazi, Mohammad Jalal., McDonald, Peter., Hosseini-chavoshi ,Meimanat. 2009, *The Fertility Transition in Iran: Revolution and Reproduction*, Springer.

Abbasi-Shavazi, Mohammad Jalal., McDonald, Peter., 2010, Fertility Decline in The Islamic Republic of Iran: 1972-2000, *Asian Population Studies*, p217-p237.

Egel,E. and Salehi-Isfahani,D.,2010, Youth Transitions to Employment and Marriage in Iran: Evidence from the School to Work Transition Survey, Middle East Youth Initiative Working Paper, Dubai School of Government.

Mir=Hosseini,Z. *Islam and Gender:The Religious Debatge in Contemporary Iran, 1999* , Princeton University Press（ミール＝ホセイニー著／山岸智子監訳，2004 年,『イスラームとジェンダー―現代イランの宗教論争』, 明石書店）.

Rezai-Rashti, Goli M. and Moghadam, Valentine M. 2011, Women and higher education in Iran:What are the implications for employmentand the ‘marriage market’?, *International Review of Education*, Volume 57, p419-p441.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

①村上明子，現代イランの女性労働：生活調査からみる現地事情の一考察，北海道大学経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター年報，査読なし，Vol.4, 2015，p135-p145.
http://hdl.handle.net/2115/58400

②村上明子，イラン女性の社会貢献活動：テヘラン市の事例分析，経済社会学会年報，査読有，Vol.38，印刷中。

〔学会発表〕（計　３件）

①村上明子，「現代イランの女性労働：生活調査からみる現地事情の一考察」，北海道大学大学院経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター2014 年度第 8 回研究会，2014 年 11 月 28 日，発表場所：北海道大学大学院経済学研究科（北海道・札幌市）。

②村上明子，「イラン女性の社会貢献活動：テヘラン市の事例分析」，アジア政経学会 2015 年度全国大会，2015 年 6 月 14 日，発表場所：立教大学池袋キャンパス（東京都・豊島区）。

③村上明子，「イラン女性の社会貢献活動」，経済社会学会東部部会，2015 年 12 月 12 日，発表場所：早稲田大学社会科学部（東京都・新宿区）。

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

山本（村上）　明子
（YAMAMOTO, Akiko; nee MURAKAMI）
北海道大学・大学院経済学研究科・助教
研究者番号：50735826

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：